

なほ

3月号
vol. 169

特集

草の流れの 草かわのように

〔第7回〕

風が通り抜ける——中本商店

「コントラスト」
中開1丁目付近にて撮影

皮革のまち、西成・浪速。
革にまつわるモノゴトを
蛇行する川のごとく
訪ね歩いていきます。

革の流れの 革の流るるに

【第7回】

風が通り抜ける——中本商店

新なにわ筋沿いの南津守さくら公園の斜め向かいに、皮を製造する工場がある。中本商店の存在は知っていた。皮革を作る工場の立地としては珍しいので、以前から気になっていた。その沿革を簡単に辿ると、中本商店は、中本榮蔵さんが「明治後期頃」（HPより）に現在の西成区中開のあたりで創業された太鼓皮製造業である。一九七〇年代に国道整備の立ち退きで現在の津守に移転してきた。

今回の取材に応じてくれたのは、前社長の中本富士彌さん（富）と「番頭」の善士幸さん（善）。富士彌さんは90歳、とてもそんな高齢とは思えない、バイタリティ溢れた先達だ。そのパワーに圧

されっぱなしの取材だった。話題は多岐に及び、そのどれもが面白い。お伝えしたいことは山ほどあるが、誌面は限られている。ここは自重し、皮づくりのことを中心に紹介することにした。

塩漬けのこと

若 HPでは、原皮を調達して塩漬け（塩蔵処理）もするとあります。革を作るタンナー（鞣し工場）で塩漬けからやっているとあまり見かけません。

富 いや、そんなわたしのとこだけじゃない。

若 ここで塩漬けの作業をするんですか？

善 いまは南港の食肉市場のな

かにあつて、そこで市場から出た原皮を塩漬けします。すぐにしないと、皮の質が落ちてしまう。

若 てっきり、ここしてるのかと思いました。

善 昔はやってたんです。以前はすぐ近くに屠場があったので、ここで処理をしたんです。

若 そういうことやったんですね。

善 一九八四年に屠場が南港に移転したとき、塩の加工だけはいっしょに南港に移転させました。塩漬けの処理をした皮は姫路にも送っています。

若 すごく珍しいなあと思って興味を持ちました。

富 屠場からの原皮を塩漬けして、それを使って太鼓の皮を作つて、太鼓屋さんに売る。この一連をすべて自前



若い頃の富士彌さん

おそらく日本国中でウチだけやと思う。
ウチで塩漬けした皮の中から太鼓に合いそうなものを取り分けて、ウチで太鼓の皮をこしらえる。

皮をたずねて数千里？

若 太鼓の皮にできるものと、よそに卸す皮のちがいは何ですか？

富 一番大事なのは厚み。牛から剥いた皮の厚みが同じでないとアカン。薄くても厚くてもい



天日干し

い、厚みが均一なのがいいんです。ところがそういうのはほとんどない。雌の牛は妊娠するから背中が厚く腹は薄くなる。太鼓の皮には向いてない。

最近では黒毛和牛の雄とホルスタインの雌牛を掛け合わせたエフワン(F1)という牛が増えてる。この皮は柔らかくて革ジャンとかブーツにはいいけど、太鼓の皮には合わない。だから、雄牛がほしいんやけど、今は牛を飼わずに種だけ買ってきて体外受精するから日本には雄牛がおらん。

若 では、皮はどこから仕入れるんですか？

富 ほんまは朝鮮の牛がいい。太鼓の皮にはこれが一番いい。端から端まで厚みが揃ってる。それに皮に脂づけがない。日本の和牛の皮は脂が多くてベタベタやねん。ところが朝鮮の去勢した朝鮮牛(ちよんぐんし)はもうホンマに脂づけがなく、なんとも言えない

ムに入れて回します。

富 ほんまは手で抜く。古い話をするとね、両端をくくって川に流したら一週間ほどで毛は抜ける。今やったら怒られるけど、昔、工場が川の近くにあったのはそういうこと。両端くくついたら、腐敗じゃない何かが起きて皮の脂と毛が抜けるんです。

若 毛を抜いて水洗いして、そ



ウラ漉き

太鼓の皮になる。

若 何ががうんですかね？

富 韓国のあの寒さに合うてるんやな。そこからきつと皮がそんな皮になってる。

今でも肉がうまいから日本の牛を飼おうと韓国に持っていきんやけど、大方、死んでしまうらしい。若くて元気なあいだしもたない。だから早く屠殺せな

の次は？

富 ウラ漉き。裏の脂をこそぎ取って厚みを揃えてる。ところで、太鼓の皮で真っ白いのがありますやろ。あれは苛性ソーダで脂を取ってるから。苛性ソーダは脂と混ぜると石鹼になる。その石鹼になったやつを湯で洗って流す。そうやって脂を抜いてはる。そうすると皮の色は白くなつて鉛色にならない。

若 そうなんですかね。

富 あるとき「なんで、中本さんところ白くせえへんの？」って聞かれた。けど、ウチの脂ないから、苛性ソーダを入れて白くする必要ない。脂を取るとあんな真っ白になる。三味線の皮が白いのはそういうこと。猫は脂がものすごい多いねん。それを「鉛色にせえ」言うてもで

あかんけど、そう

すると(商売的に)おもしろくない。韓国では他の牛が育たない。でも、日本で一箇所だけ(朝鮮由来の牛の産地)がある。

若 どこですか。

富 長崎の五島列島にだけ今でも一十頭ぐらいいおるかな。売れるような大きさになつたら熊本の家場へ

持ってきて売ってる。

若 じゃ、今ここに入ってくる皮はそのの？

富 ウチ？ いま？ 世界で一番工工ところから買つてんねん。

若 どこやろ？

富 これはね、今までは考えられへん。そんな皮を地球の裏側から買つてくるつてな。

若 アルゼンチンとかブラジル

きん。脂のない猫の皮でない。白いのも白いで原因があるわけや。

そしてまた水洗いして、天日で三〜四日ほど乾かす。

若 鞣しはしないんですか？

富 鞣したら太鼓の皮ちゃうねん。ウチらの「干した皮」って書いて干皮(ひかわ)やねん。外国では「ローハイド(rawhide)」って言うんかな。

若 干すのは工場内ですか？

富 この干し場だけ。乾燥室はあるけどなるべく使わない。「生干し」というのが条件や。流行りは真似しない。その時どきでいろんな話が来るけどね、もうこのやり方でいくつて決めたからね。ほな、何年かしたら戻つてくる。「あの皮な、やつぱり叩いたら破れるわ」とかってね。

若 けど、天日干しだけで出来る上がるもんなんですか？

富 出来ます。これは工場の造りがポイント。干し場がものす

とかですか？

富 商社にも探してもうて、わたしらも「この皮に決めるわ」つて言うまで三十年ぐらいかつてる。スパイも来るよ。「あんな皮、日本にないのに、なんで中本とこにあんな皮あるんやろ？」つて。

若 では、これはちょっと書けないですね。

富 ともかく、今来てるのがいちばんいい。朝鮮牛のほうが肌理(きま)は細かいけど、勝つてるのはそれだけ。背中から腹まで厚みがいつしよで、厚みもけつこうある。普通より1ミリは厚いと思う。

風が通り抜ける工場

若 塩漬けた皮をここに持って来た次はどんな作業を？

善 まずは水洗い。その後、皮に付いてる毛を抜くために薬品(硫化ソーダ)といっしよにドラ



工場内の天井は高い

ごい良いんです。屋根が高くて風通しがいい。

若 たしかに天井が高いなあと思つてたんです。

富 その高いのがいいんです。風が上がるようになってっぺんに筒を空ける。

善 強い風で屋根が飛ばんように、抜けるようにしてます。

富 いいですよ、煙突やないけどね、風がスウつと。

文責：若松司

取材協力：西原夏美



1967〜75年 アート・シアター・ギルド2

1970年代という時間は、私にとって記号的、暗示的意味のある特別な歴史だったと記憶する。
みずからの無知を知らされ、社会への関心を強いられ、なによりみずからに微塵の力もないことを知らされた「時たち」の連続であったからだ。
70年代という時が変幻し、遙かな遠い現在のこの地に漂着してしまった今、ごく私的なその記憶の断片をかき集め、私がいた70年代を確認してみたいと考えた。

くらし応援室／楽塾・佐々木敏明

るいは暴力的に描かれ、そしてそれらは即物的、漫画的で演出の跡さえ見えない。これまで見たことのない素人風映画手法が第一の印象だった。電子頭脳が生身の人間を管理する未来の日常を戯画化した映画で、SF映画おなじみの特撮など微塵もないし、米映画お得意のエイリアンが跳梁することも無い。前後のエピソードも、登場人物の出自も性格も不詳。いわば物語のセオリーや起承転結など、これまで僕らが映画に託す期待や思い込み、情熱や感動の欲求を無視し、というよりも映画であるがゆえに映画のフィクションを裏切る。

『勝手にしやがれ』は、チンピラと米国娘のパリ恋愛逃避行といえる映画だが、ほとんどがディベイト劇の体裁である。突然観客に喋ってくる主人公や、「あなたの中あなたにわからない」とか「悲嘆または無、どちらを選ぶ」など、観客の意向を無視し、永遠に平行線を辿るような二人の会話の連鎖や応酬シーンが続く。冗長や情緒を許さぬ編集やカットなど、従来の映画に慣れ親しんだ多くの観客たちが期待するストーリー展開とか、映画の常識などを期待すると梯子を外されてしまっつ。

影はクータルにも現れるパリの夜景が新鮮で、作品そのものが半世紀後の今を刺激し続けている。
映画「勝手にしやがれ」
『勝手にしやがれ』は、チンピラと米国娘のパリ恋愛逃避行といえる映画だが、ほとんどがディベイト劇の体裁である。突然観客に喋ってくる主人公や、「あなたの中あなたにわからない」とか「悲嘆または無、どちらを選ぶ」など、観客の意向を無視し、永遠に平行線を辿るような二人の会話の連鎖や応酬シーンが続く。冗長や情緒を許さぬ編集やカットなど、従来の映画に慣れ親しんだ多くの観客たちが期待するストーリー展開とか、映画の常識などを期待すると梯子を外されてしまっつ。

ゴダールが見せたのは、それがそが作り手と観客とのかぼそいコミュニケーションの可能性であり、映画への想像力を求めたものなの
だ。ラストシーンでのチンピラが「うんざりだ」と言って悶絶し、その対となる映画とも思える『女と男のいる歩道』(72年製作のラストシーンは、無感動とアツケラカンでヒロインが殺害される。その死の多様性が見る者を混乱させた。映画の発信者が、従来の演出や技術の疑念を新たな表現に変換し、見る者に受け身を許さなかつたのがゴダールだった。
人それぞれの視点、思考、感情は同じではない。映画産業が多数の観客の好みを量産し、全ての欲求と期待に応える作品を創るなんて全体主義だ。多数が熱狂する映画は映画でなく、映画を語り合える人達のコミュニケーションが映画をターゲットさせる、というのがゴダールのメッセージと見ることができ
る。
当時の僕は、ゴダールの記号を
読めない劣等感の中で映画館に通
い、そこから映画の常識とかレディ

ゴダール

僕のこれまで見たATG作品の殆どは(第2期ATG/67-75年)に重なる。欄外の邦画そして配給された外国映画は、当時の僕が見た作品だ。第一期と比べて邦画製作が圧倒的となり、外国映画の配給は寡少となつていく。そんな外国作品のなかひととき複雑な映画を見せつけられ、自分の映画観を変えた事件がジャン・リュック・ゴダールだった。
ゴダール作品はATGで数本上
映されている。従来、映画は正しく座し鑑賞する姿勢を求めた。しかし座席を追われ、見ることも拒絶するかのよう威圧と支離滅裂さが半端でない体験がゴダールだった。それでも新しい息吹に興味を抱き、負けてたまるかなどと闘争心も手伝い、ゴダールの新作のたび憂鬱と煩悶を抱きながら席に着き、奇妙な期待感も味わうようになった。それはトラウマにも等しい体験だった。

映画を疑う

『アルファヴィル』(70年日本公開)は、ゴダール体験の最初の作品だった。近未来、地球外の宇宙空間に浮かぶコンピュータが支配する都市アルファ60が舞台だ。行方不明になった科学者を探しにやって来る探偵の話だが、彼が遭遇する惑星での言語統制のなか、異星人との会話や行動がコミカルにあ

[田岡秀朋] 堺市長が「財政危機」宣言を発した。コロナ禍での税収不足も一因だが、これは国が手当てすると思ひ込んでいた。堺が危機なら、あちこちでお尻に火がついてしまう。。。

[佐々木敏明] 鳩群れや離陸羽音で冬を継ぐ松七日野辺送りあとの寿ぎ凍る鉄橋こを住処と影法師冬疫神石鯨の身を瘦せさせる

[沖田一志] 花粉が飛び始める季節。花粉症歴20年以上の私はマスクが嫌いなので、例年はマスクフリーで過ごしていた。ところが、今年はコロナで常にマスク着用。花粉症に効果があるのかなあ？

些事争論

些事でも何でも気になったらあれこれ考えてみよう。いいこと思いつくかもしれないし。気づいたら西成にたどり着いていた、或るオタクのゆったり系コラム。

『小さな市街図』

遠い記憶の奥底で、丈の高い晩秋の草が乾いた音を立てて揺れている。遠い記憶の奥底で、空はどこまでも青い。幼少期を過ごした、武蔵野の小さな町の話である。そこは都心からさほど離れてはいなかったが、雑木林や竹林があり、いくつか湧水もあった。今ももう影も形も無いが、湧水を源とする小川の最上流に架かる橋の袂に、当時暮らした家があった。

作家の古山高麗雄は、生まれ故郷の街、戦前の新義州の追憶を多くの著作で繰り返し語っている。新義州は朝鮮半島の最北部を流れる鴨緑江の河口に近い街で、対岸は中国の丹東、当時は満洲の安東といった。荒野に拓かれた植民地の街には、内地から様々な物が持ち込まれた。盆踊り、サーカス、花火大会。春には長い鉄橋を渡って安東の桜を見に行った。

春から夏にかけて濁流が渦を巻く鴨緑江は、秋が深まるにつれ蒼く澄み、冬には一面に堅く結氷する。川が歩いて渡れるようになると、渡船は櫓に変わり、密輸団が夜陰に紛れて跳梁した。満洲から馬賊が新義州を襲撃に来るかもしれないと、幼い古山は夢想した。終戦後の混乱の日々は『小さな市街図』という小説に詳しいが、自害した



「鬼は外～！ 福は内～！」と掛け声の練習をしていると…、そこに突然鬼が登場！！ 必死に豆を投げる子、逃げ回る子、先生の後ろに隠れる子など様々でしたが、なんとか鬼退治に成功！



者、進駐したソ連軍に処刑された者、シベリアに送られた者もいた。家財、家屋は略奪を受け、接収された。内地への引揚げは、船で鴨緑江から黄海に抜ける海路と、汽車で平壤まで行き、徒歩で三十八度線を越える陸路で行われたが、その過程でも多数が命を落とした。日本の支配でも解放された朝鮮半島は、数年後に今度は朝鮮戦争の戦渦に巻き込まれる。新義州は激戦地となり、米軍の空爆で街は壊滅、その後は北朝鮮の非開放地区となった。

後年、古山は新義州を再訪したが、およそ半世紀ぶりに帰還した故郷は白い国営住宅で埋め尽くされ、往時の街並みは跡形も無く消失していた。かつてアカシアやポプラの並木道だった街路はひっそりと静まり、一軒の商店も見当たらない。駅前広場には金日成の銅像が建っていた。もう、鴨緑江を

たぐの 3くふうたま 豊 間

向き合う勇気

ハナレバナレになった人とまち。くらしの窓から紡ぐヒントを探してみる。

「eスポーツ(ゲーム大会)で高額賞金獲得」のニュースは、ゲームに明け暮れる若者の時間を奪い、よそに、ゲームは彼らを夢へ駆り立てる。ゲーム世界「あちら」では、丹精込めて育てたキャラが、自身のウデで相手を次々倒してゆく。オンラインで世界中の仲間にも開かれ、会話しながらチーム戦。夢中にならない理由がない。しかしのめり込み過ぎると、娯楽を超えて「あちら」と「こちら」の境界を見失いかねない。こちらは彼らの背中がそう映り、ヒヤッとした。僕には彼らの背中がそう映り、ヒヤッとした。

こちらは、地味なくせに課題山積みみハードゲーム。攻略不可能な「無理ゲー」と見限った「ざとり世代」には希望も刺激も物足りないのかもしれない。ただ、つまらないこちらの世界は君たちの都合には合わせたくないし、リセットも効かない。こちらに引き戻す勇気がない。でも、ちゃんと伝えなくては。

(安田拓也)



ゲーム機に納まっていたゲームの時代

渡船や櫓が行き交うことは無い。故郷とは、誰にでもあるものでもなく、永遠にあるものでもない、と古山は書き残している。しかし本日は、故郷とは場所でも時間でもないのかもしれない。それは一本の燈火のように、記憶の彼方からそっと忍び込むようにやって来るのかもしれない。ありふれた日々暮らしの中に。眠れない夜の合間に見る、一瞬の夢の中に。いつか撮った記念写真の笑顔の中に。

今も時々、かつて暮らした町の小さな川に立つことがある。最後に訪れた昨年暮れ、日は既に落ちて、橋の上にも冬の冷たい風が吹いていた。夜の川は、生と死の間を貫いて流れる。水面は月の光を呑み込んで銀色の帯となり、茫茫とした武蔵野に静かに横たわっていた。ここから海まではまだ遠い。

闇の向こうのどこかで、いつかのように丈の高い草が乾いた音を立てている。そのざわめきの中にふと、国境を越える馬賊たちの足音が聴こえた気がした。

ハンプティ・T

古山高麗雄『小さな市街図』河出書房新社、1972年

9 [安田拓也] 離れた親兄弟との久しぶりのメールで相変わらずだとホッとする。音楽では、休符こそ音楽、無音に始まり無音に終わるとも言われる。無があってこそ何気ない一音の価値に気付く。



[西田吉志] ある公営住宅自治会の悩み。ゴミの分別をしないから回収されずに放置され、ゴミが溜まる一方のゴミ置場。張り紙しても、通知しても、費用をかけて撤去しても同じことの繰り返し。



[寺島史視] 3月になり今年度もあと数回の「やってみよう屋」。今年はオンラインでの開催も試みたが、最後は子どもたちとの対面で「やってみよう屋」らしい思い出に残る活動がしたいな。



[谷口円] デジタルイラストで手描き風タッチを追求したり、デジタル写真をフィルム風に加工したり。倒錯してるよなあと思わなくもないけれど、結局それに惹かれたりする。アナログ強し。



葉っぱの吐見

私は草木が大好きです。とくに観葉植物には心癒されます。私と葉っぱとのお喋りを聞いてください。



「オタフクナンテンの葉っぱ」の巻

このごろわたし、どうしたんだらう？
頭がボーンツツとして集中できない。
胸がキューンとして苦しい。
熱はないのにほっぺは真っ赤。
怖いよぉ〜！
お願い！だれか助けて。
すると「だれかさんに恋をしたね？」
ニコニコ顔のお日様がささやいた。
でも、わたし、だれに恋をしているの？

赤井まゆみ

オタフクナンテンのこと

メキ科ナンテン属。漢字で書くとお多福南天と書き縁起の良い木と言われる。花言葉は「良い家庭」「私の愛は増すばかり」。

皮算用 胸算用

にしなり隣保館の館長が日々の出来事について胸のうちに皮算用していることを語っていくよ。



(寺本良弘)

2月3日に開かれたJOC臨時評議員会で、森喜朗会長が女性蔑視を含む発言をした、と世界中から非難を浴びた。コロナ禍で開催が危ぶまれているオリンピックを半年後に控え、なんとという醜態か。明らかに「オリンピック憲章」に反する発言である。森氏本人による会見以降も批判はさらに強まり、会長職の去就をめぐって二転三転の組織委員会。透明性のある選考プロセスを実施してもらいたいものだ。

他方で、菅総理のご長男の接待問題も見ごせない。総理が「長男の問題」と一線を画すのはわからなくもない。総理本人の関与もないだろうが、総務省幹部の長男への忖度は常識的にみて自明である。幹部官僚をはじめ当事者らが真相究明に真摯に協力するよう、総理にはリーダーシップを発揮してもらいたい。日本の政治は何とかならないものか。

い湯がげん

市場を市民に、選挙を参加に代えてみる

「ミニシバリズム」という言葉を教えてくれたのは谷元昭信さんだ。「地方自治体」という意味だが、その「対国家(中央)性」からさらに踏み込み「対市場(利潤)」「対政治(選挙)」を讀む込む。すると、現に存在する「市場(原理)」では解決できない問題「選挙では反映されない民意」の対案として、「市民(原理)」と市民参加への自治機構改革が浮かび上がってくる。

ミニシバリズムの実践で有名なのはスペインのバルセロナ市だ。ポクが長らく取り組んできた公契約の入札改革や公共サービスの「市民営化」が、市を挙げて実践されていると岸道雄さん(立命館大)に紹介された。バルセロナ「市民議会」なんて試みもあると齊藤幸平さん(社会思想家)か

ら聴いた。通常、議会は選挙で選ばれた「プロ」の議員で構成されるが、市民議会の議員は、日本の裁判員制度のように無作為で指名された「素人」によって構成される。谷元さんの知人達も島根県松江市で、反原発運動から「市民議会」による直接民主主義に挑戦している。

ちよつと見ると維新の主張に似ていると感じたのは、ポクの「橋下鼻眞」故だ。しかし、維新は市民営化ではなく「民営化」だし、市民議会のような直接民主主義ではなく、選挙至上主義だから似て非だ。それでも大阪人に強く支持されたのは、似て非でも市場や自治体機構は今のままでダメではないのかという漠とした志向があったからではないか。いや、橋下

改革は途中駅で、その先がある。天王寺公園を「官営」から近鉄に「民営化」したのが橋下改革で、その先の「市民営化」に向かうべきだ。大阪府立住吉公園などが企業と社会的企業のJV(共同企業体)で運営されているのは先駆ではないか。都構想も問題提起は良しとして、大阪市解体ではなからう、その先はなんだ？ポクはそう振り返っている。

そんなことを考えていたら、部落解放同盟大阪府連の赤井委員長のコラムに出会った。赤井さんは、今年の運動の目標を①差別を法的に禁止する、②地域共生たる市民運動、③生活圏からの政治スタイル、④水平社宣言にふさわしい運動と組織を地域から再構築すると書かれていた。赤井さんもミニシバリズムで解放運動を考えておられるのか。

国会はコロナ特措法を改正したが、国民に罰則を課すというのだから「コロナ罰則法」で、百年前の「ハンセン病隔離法」と何ら変わらない差別法となってしまう。大阪府に対する赤井さんの「コロナ差別防止条例提案は、罰則法の国に対抗する地方か

らの人権条例運動だと共感した。また、先頃、労働者協同組合法制定を実現した生協運動のリーダーは、これからの社会運動は「社会連帯運動」に脱皮すべきと語られたが、赤井さんも資本主義そのものに対抗するような「地域共生(連帯)たる市民運動」を思い描かれているみたいだ。政治はその「スタイル」を中央集権型・選挙中心対立型から、地域創造型・市民主導の提案型に変えるべきだとも提案されている。最後に、水平社から百年も続く当事者運動団体たる部落解放同盟を改革するとも。その趣旨は、部落民あるいは障がい者だけでなく、すべての「マイノリティ」の拠り所となる地域組織、地域運動の創造だと解釈した。



富田一幸

人間のしあわせ、福祉のあり方、そして新しい社会の結びつきを求めて、これからも「いい湯かげん」のテーマ探しに出かけます。



[山村裕太] Youtubeのプレミアム会員なりました。広告が全く出ません。快適すぎて、おそらくもう広告有りには戻れないと思います。



[若松司]「なび」のバックナンバーを揃えてリストを作ってみた。こうしてリストを眺めると、ストーリーというか、流れというかが感じとれそうに思うから不思議。リスト化の作用だな。

地域の縁を心でつなぐ

松崎ごい 心の時間

今月の十一日で東日本大震災から十年が経ちます。某新聞に掲載された一枚の写真には、震災で早世した息子の誕生日に仏前に供えられた成人式のスーツ。亡き息子に向けた母親の「ころろ」が鮮明に見えます。震災直後のテレビCMに起用された宮澤章二さんの詩も、多くの人々の共感と共鳴を生みました——ころろは

だれにも見えないけれど、ころろづかいは見える。思いは見えないけれど、思いやりはだれにでも見える。いずれも「ころろ」や「思い」が形となって現れる感動的な場面です。

コロナ禍の中、「分かりづらい回答弁」や「根拠のない勇ましい発言」「ころろない陳謝」をテレビで見ていると、かつてある政治家の勇ましい発言とその行動とのギャップが「言うだけ番長」「口だけ番長」と揶揄されていたことを思い出し、「〇〇番長」の健在ぶりを感じます。「マネー」「トラベル」「イート」による救いも結構ですが、震災という出来事は「ころろ」の救いが最も大切であることを教えてください。

松向寺 通法

ココドコ

ココはドコ？
わたしはゆ〜とあい
編集部が厳選した
「にしなり100景」
大公開！

普段この角度から見ることはあまりないですが、上を通ったことはあるかもしれません。ココがドコだかわかった人は、ゆ〜とあいの受付まで！正解者にはドリンク無料チケットをプレゼントいたします（先着10名様限り）。回答期限は3月末日、ふるってご回答ください！

【先月号の答え】 玉出駅から歩いて数分の所にある、生根神社の写真でした！今年の1月号表紙の、天神牛のある神社です。



2020年6月撮影



ゆ〜とあい

にしなり隣保館

にしなり隣保館「スマイル ゆ〜とあい」は、地域コミュニティ全体が抱える課題の解決をめざす民設民営の福祉施設です。日々悩んでおられる困りごとはありませんか？お悩み解決のためにできることをいっしょに探しましょう。

なび3月号(vol.169)
発行日:2021年3月1日(創刊日:2007年1月1日)
発行:株式会社ナイス
住所:大阪市西成区長橋3-6-33
電話:06-6563-1156
E-mail:info@nice.ne.jp
url:http://www.nice.ne.jp/

編集長:若松司
編集:沖田一志、佐々木敏明、田岡秀朋、
寺島史視、西田吉志、安田拓也、山村裕太(あ
いうえお順)
イラスト:hidarimakい デザイン:谷口円

facebook: <https://www.facebook.com/navi.nishinari/>

facebook

